



自らまなび 心豊かに  
たくましく生きる  
江北の子を育てます

# 江北小だより

～幸せいっぱい学校をめざして～

校長だより第10号

令和2年10月15日(木) 江北小学校校長 篠原 一彦

## 体育大会の応援、 有難うございました！



9月27日(日)に開催した体育大会では、保護者様、ご家族の皆様の応援のもと、無事に大会を終えることができました。

ご協力、本当に有難うございました。

今年度の体育大会はコロナ禍の中、どうすれば体育大会が開催できるかを何カ月も前から職員、町教委、PTA 実行委員会の方々と知恵を絞りながら話し合い、計画と準備を進めてまいりました。児童を密集させない開・閉会式、声出しと演舞に工夫を凝らした応援合戦、アイデアを工夫したレクリエーション走、お弁当を食べずに昼までで競技を終了する半日開催など、これまでになかった形での体育大会となりました。保護者様の参観においては「1世帯1名」という制限を設けねばなりませんでしたが、当日は保護者の皆様がルールを守って、お互いに譲り合って応援されている姿を見て、保護者の方々の真摯な姿勢と保護者様同士のつながり・一体感をひしひしと感じました。

子ども達も一生懸命頑張りました。1年生から6年生までが心をつなげた応援合戦。転んでも起き上がって最後まで走り抜いた徒競走。覚えての振り付けで笑顔で踊った団体演技。勇壮な面浮立とソーラン。親御さんの愛情を感じた6年生のレク走など、今でも一つ一つのシーンが思い出されます。競技前の緊張感、声援を受けて走る時の爽快感、勝っても負けても自分なりに精一杯やり遂げたという達成感・満足感にあふれた表情からは、すべての子ども達が全力を尽くしてくれたことが伝わってきて、とても嬉しく思いました。

また今回は初の試みとして武雄のケーブルテレビによる映像の収録と、ライブカメラによる生中継を行いました。ライブ中継では「家のテレビにつないで大画面で見ました!」「離島で暮らしているおじいちゃんとおばあちゃんに見てもらうことができ、孝行ができました。」などの声をいただき、やって良かったと思えました。

これからもコロナ対策を考えながらの学校行事が続きますが、行事を通して子ども達を成長させたいと思います。今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。



☆応援合戦は短い練習期間だった上に、コロナウイルス対策のため上級生だけが歌い下級生は振り付けと掛け声のみというルールでしたが、どの組もいいアイデアを出し、工夫して素晴らしい応援ができていました。

※写真は上から赤組・青組・黄組



←1年生の徒競走。一生懸命走る姿に感動しました。

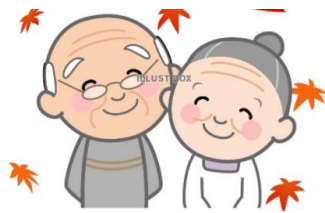


中学年のレク走  
「ゴー・トゥー・トラベル」



低学年の団体演技  
「つぶぞろいのマスカット」  
可愛い!!

## たくさんの ご返事、有難う ございました！



9月21日（月）は敬老の日でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、例年行われていた町主催の敬老会が中止となってしまいました。すると町の福祉課より「江北小の子ども達に、敬老の日を迎えたお年寄りを元気にするような手紙を描いてもらえませんか」との依頼がありました。子ども達はまるで自分のおじいちゃん、おばあちゃんに贈るようなイメージで「元気で長生きしてください」という思いを込めて一生懸命に絵手紙をかいてくれました。

絵手紙は無事に町内のお年寄りに届けられましたが、驚いたのはその後です。連日、お年寄りから子ども達への御礼の手紙やはがきがたくさん届きました。中には、わざわざ学校まで御礼を言いに来られた90歳のおじい様もおられました。はがきをもらったことがとても嬉しくて、ぜひ直接お礼を言いたかったのだそうです。返信には「今でもらった手紙で一番嬉しかったよ。」「百歳まで生きる元気が出ました。ありがとう。」「コロナに負けず、お勉強に運動にがんばってね。」などお年寄りから子ども達に向けた温かいメッセージが書いてありました。今回の取組を通して、子ども達とお年寄りの心と心がつながったこと、子ども達が「やさしさと思いやり」を実感できたことが何よりも嬉しく思いました。来年以降もぜひ続けていきたいと思いました。

### 5年生が木工作品に取り組みました！

10月13日（火）、5年生が杵藤農林事務所や江北町役場の方々のご指導のもと、木工作品の制作に取り組みました。金づちで釘を打って角材や板を組み合わせ、見事な「台」を作成しました。最初は空振りしたり釘が曲がったりして苦労していた子どもどんどん上手になっていき、出来上がった台を見て満足そうでした。木の肌触りもよく、見た目も素敵なのでぜひ家庭で使ってもらえたらと思います。



## 「心のアンテナ」を高く張って

体育大会が終わり、新型コロナウイルス感染症予防対策も落ち着いてきて、修学旅行や芸術鑑賞など次の学校行事に向けて子ども達もちょっと一息ついていた先週のある時期に、「それ」は起こりました。複数の学年の子ども達の靴にいたずらがされるという出来事が相次いで発生しました。

すぐに緊急会議を開いて対策を話し合いました。「子ども達が今、どんな状況・心境にあるか」「まず、何をすべきか」を全員で話し合いました。

- ◎ 第一は被害にあった子ども達の心のケアをしっかりと行うことを一番に考えること。
- ◎ 他人を傷つけたり不安にさせたりする行為は絶対に許されることではないことを子ども達に訴えるとともに、そうした行為を“心のサイン”と受け止めて、心のアンテナを高く張り巡らせて、子ども達一人一人に寄り添う気持ちで向き合うこと。

- ◎ 子ども達に指導するだけでなく、教師一人一人が爽やかな挨拶や温かい声掛けをして、子ども達の心を明るくしていくこと。

…などを確認して、まずは教師自身が自分にできることを考え、子ども達に働きかけていこうということになりました。

翌日、朝の挨拶運動に立つ先生や、玄関の掃除をする先生、担任する子供たち以外の学年の子どもにも笑顔で元気に声をかける先生、昼休みに外で一緒に遊ぶ先生など、それぞれの先生が思い思いに子ども達に向き合う姿がありました。

その後、今週になってからはいたずらもなく、ほっとしていますが、今回のことを、私達教師が今一度子ども達にしっかりと向き合うことのきっかけにして取り組んでいく所存です。

保護者の方にもご心配をおかけいたしました。

今後ご家庭と連携しながら子ども達に豊かな情操を育てていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

